

医系総合大学の特色を活かした学部連携教育

昭和大学は、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部からなる医系総合大学であり、大学の教育理念に「学部の枠を越えてともに学び、互いに理解し合え、協力できる人材を育成する」ことを明記し、チーム医療に積極的に貢献できる人材養成を全学部に通ずる教育の目的としている。この教育理念を具現化するため、全学年にわたる体系的、段階的な学部連携教育カリキュラムを実施し、チーム医療の実践に必要な能力を修得する学習を行っている。低学年では、チーム医療の基盤作りとして、大学内外での各種の体験実習やPBLチュートリアルなどの問題解決型学習、高学年では、大学内外の医療施設や地域社会での実践的なチーム医療学習を、いずれも4学部合同カリキュラム（多職種連携教育、interprofessional education:IPE）として実施している。

初年次体験実習 医・歯・薬学部における2年次の病院体験実習および3年次に実施する地域医療実習への導入教育として、1年次に全寮制共同生活の環境を活かした初年次体験実習を実施する。実習は4学部合同の学生グループで、①病院見学、②福祉関連施設体験、③AED+心肺蘇生および外科的救急処置を行う。本初年次体験実習を通じて、実際に“医行為”が行われている現場を見学、体験することで、医師、看護師、薬剤師、理学・作業療法士の医療活動、患者に対する態度・姿勢、患者の反応や訴え、苦しみなどを直接見聞きし、将来、多様な背景を持つ人々に、誠意と真心を持って、適切な対応が出来る社会性ある医療人となるための基礎を身に付ける。また、医療は保健・福祉・介護等の社会保障制度の中の一つとしてあることを体験することで、人の生活に関わる一員であることを自覚する機会とする。

学部連携PBL(Problem-based learning)チュートリアルによる問題解決型学習 4学部合同の学生グループによる学部連携PBLチュートリアルを1・3・4年次（保健医療学部は1・2・3年次）に実施する。内容は学年に従い徐々に臨床の場面設定に近づける累進型としている。1年次においては、将来、患者中心のチーム医療を実践するために必要な人間関係の基盤を築くことを目的としておこなう。本学における全寮制教育の環境を活かし、4学部学生のそれぞれの視点からの討議をもとに、医系総合大学の初年次学生として、健康に関わるさまざまな場面における問題解決のプロセス、各職種の役割と連携を相互に理解し、協調しながら問題解決策を提示することのできる態度および技能を身につける身近な話題をテーマとしたPBLチュートリアルを前後期通じて2回行う。3年次（保健医療学部2年次）には患者症例をもとにした臨床シナリオ・PBLチュートリアルを1回、4年次（保健医療学部3年次）は、病棟での資料を用いた病棟実習シミュレーション・PBLチュートリアルを1回実施する。

学部連携病棟実習 医・歯・薬学部5年生、保健医療学部理学療法学科3年生、看護学科・作業療法学科4年生の学部合同チームが同じ患者を1週間担当する学部連携病棟実習を、附属7病院の約40病棟で実施する。

学部連携地域医療実習・学部連携アドバンスト病院実習 医・歯・薬学部6年生、保健医療学部4年生の選択実習として、在宅医療を中心とした地域におけるチーム医療を学習する学部連携地域医療実習、および大学病院における専門性の高い領域（がん、感染制御、救急医療、周産期医療など）のチーム医療を学習する学部連携アドバンスト病院実習を実施する。

昭和大学の体系的なチーム医療学習のカリキュラム

